HIROSAKI UNIVERSITY

弘前大学
医学部 保健学科

School of Health Sciences

HIROSAKI UNIVERSITY 2020

たゆまぬ探究心と高度な専門知識を身につけ、
保健医療の一翼を担いながら社会で貢献できる人になる。

Contents

02　保健学科長／保健学研究科長 挨拶
04　機構図／本学科・研究科の沿革／本学科の目的および使命

弘前大学医学部保健学科

05　医学部保健学科5専攻の概要
06　看護学専攻
07　放射線技術科学専攻
08　検査技術科学専攻
09　理学療法学専攻
10　作業療法学専攻
11　教育課程
12　教育課程
13　都道府県別入学者数／卒業後の進路／ 1年間の行事
14　地域別就職先

弘前大学大学院保健学研究科

15　各領域の紹介
16　大学院保健学研究科博士前期課程（修業2年）
　　各領域の指導教員と研究テーマ
20　大学院保健学研究科博士後期課程（修業3年）
　　各領域の指導教員と研究テーマ
24　教育体制の特色
25　研究体制の特色・学校支援
26　所在地
27　本学部・研究科のポリシー

保健学科長
保健学研究科長　**齋藤　陽子**

学科長／研究科長 挨拶

弘前大学医学部保健学科は2000年10月に設置され、その後十数年を経ながら、その役割・成果を挙げてきております。2005年4月に開設された弘前大学大学院医学系研究科保健学専攻（修士課程）は、2007年4月に博士後期課程の設置とともに大学院保健学研究科として独立・部局化しました。こうした歩みの背景には、少子高齢社会を迎えたわが国における保健医療の担い手の育成およびその教育と研究の基盤整備を行うことが、喫緊の課題として顕在化したことによります。一方、保健・医療分野では、遺伝子医療や再生医療の進展にみられるように細分化や融合化が進む中、生活習慣病の対策や地域包括ケアの構築が進められるとともに、生活の質を重視した健康観が求められております。

弘前大学医学部保健学科は、学生と職員が協力し、人材育成の目標を掲げ、社会の要請に応えようとしております。保健学科は、看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻の5専攻を有し、5学部から構成される中規模総合大学の一翼を担い、目標達成を目指しております。

弘前大学大学院保健学研究科は、平成28年4月に組織改編を行い、博士前期課程、後期課程ともに看護学領域、放射線技術科学領域、生体検査科学領域、総合リハビリテーション科学領域の4領域を有しております。博士前期課程は管理実践能力をもつ指導者・高度専門職業人の育成を目的としております。また、博士後期課程は、高度な専門的知識技術をもつ教育研究者の育成を目的として、社会に貢献しようとしております。2010年度から博士前期課程に「被ばく医療コース」を設置するなど、緊急被ばく医療に対応できる医療専門職の養成を行っております。こうした取り組みは、東日本大震災に続発した原子力発電所事故に、本研究科教員が支援活動を行えたことに繋がりました。さらに 2015年度から博士前期課程に「放射線看護高度看護実践コース」を設置し、より高度で実践的な看護職の養成を目指すとともに、博士後期課程に「被ばく医療コース」を設置し、放射線に関わる被ばく医療の高度な教育者および研究者の養成を目指しております。

保健学科、保健学研究科は、保健医療の一翼を担いながら社会で活躍してみたい、社会に貢献したいという意欲ある皆さんの入学を心から歓迎します。

チーム医療に必要な、人間性と倫理性を兼ね備えた、医療従事者を育てる。

本学科の目的および使命

【医学部保健学科】

近年、医療が高度化・複雑化し、医療従事者が備えるべき知識や技術は膨大なものになっています。また、医療職の専門分化によって、患者や医療従事者との関係が断片的なものになっているばかりでなく、医療従事者相互間のコミュニケーションも困難になってきました。一方、わが国では、老年人口の急激な増加に伴って慢性疾患の増加や介護を必要とする高齢者が増加する環境に、在宅医療や訪問看護の実施の他、介護保険制度も発足して病院のみで医療が実施される時代ではなくなってきています。また、先の東日本大震災の教訓から不測の事態に備え緊急時医療対応の準備をする必要があります。

このような背景を有する社会の要請に的確に応えるため、本学は、高度な医療技術はもとより、豊かな人間性と倫理性を兼ね備え、国民の健康と福祉に貢献できるメディカルスタッフの育成をユニークなカリキュラムによって行ないます。

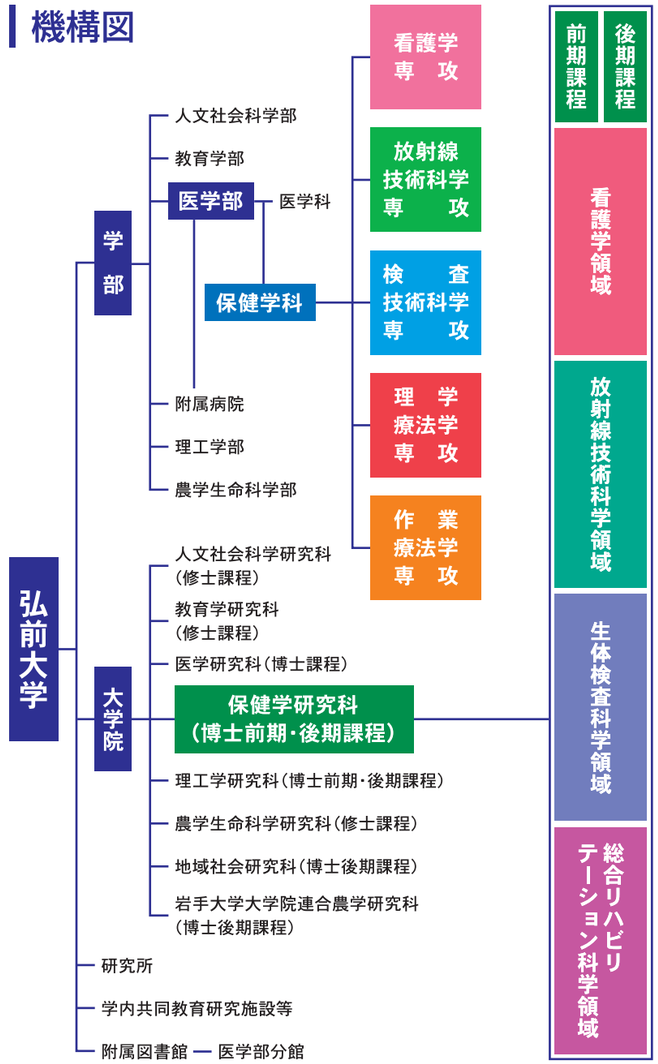
【大学院保健学研究科博士課程】

大学院保健学研究科保健学専攻博士課程では、保健学における教育と研究を通してその成果を社会に還元し、人類の健康と福祉の向上に寄与することを基本理念としております。

博士前期課程では、学部教育をさらに発展させ、保健学の領域における教育と研究を通して知的財産を創造・蓄積するとともに、実践の場でリーダーシップを発揮し、指導的役割を果たすことのできる“メディカルスタッフ”の育成を目標とします。

さらに博士後期課程では、人々の健康を保持増進し、生活の質（QOL）向上に向けた独創的・学際的な研究を自立的に進め、幅広い学識と高度な専門性、倫理性を身につけた教育者・研究者を育成することを目的とします。

機構図



本学科・研究科の沿革

本学部局は国立大学法人弘前大学医学部保健学科と同大学院保健学研究科（博士課程）から構成されており、医療技術者教育及び教員・研究者養成機関として長い歴史と伝統があります。

昭和50年	4月	国立弘前大学医療技術短期大学部設置
平成12年	10月	国立弘前大学医学部保健学科設立
平成16年	4月	国立大学法人弘前大学医学部保健学科設立
平成17年	4月	国立大学法人弘前大学大学院医学系研究科保健学専攻（修士課程）設置
平成19年	4月	国立大学法人弘前大学大学院保健学研究科（博士課程）設置（既設の「修士課程」は「博士前期課程」として改組）

医学部保健学科5専攻の概要

看護学専攻

●修業年限／4年　●入学定員／80名
●3年次編入学定員／10名※3

●取得学位／学士（看護学）

●国家試験受験資格等※1
看護師　保健師※2　助産師※2
高等学校教諭一種免許状（看護）※2

●入学者選抜方法（平成30年度入試）

一般入試	前期日程／個別学力検査
AO入試	出願書類、小論文、面接
特別選抜（社会人入試）	小論文、面接（予定）
特別選抜（私費外国人留学生入試）	小論文、面接（予定）

放射線技術科学専攻

●修業年限／4年　●入学定員／40名
●3年次編入学定員／5名※3

●取得学位／学士（保健学）

●国家試験受験資格等※1
診療放射線技師

●入学者選抜方法（平成30年度入試）

一般入試	前期日程／個別学力検査
AO入試	出願書類、小論文、面接
特別選抜（私費外国人留学生入試）	小論文、面接（予定）

検査技術科学専攻

●修業年限／4年　●入学定員／40名
●3年次編入学定員／5名※3

●取得学位／学士（保健学）

●国家試験受験資格等※1
臨床検査技師　細胞検査士※2
食品衛生管理者　食品衛生監視員
健康食品管理士

●入学者選抜方法（平成30年度入試）

一般入試	前期日程／個別学力検査
AO入試	出願書類、小論文、面接
特別選抜（私費外国人留学生入試）	小論文、面接（予定）

理学療法学専攻

●修業年限／4年　●入学定員／20名
●3年次編入学定員／5名※3

●取得学位／学士（保健学）

●国家試験受験資格等※1
理学療法士

●入学者選抜方法（平成30年度入試）

一般入試	前期日程／個別学力検査
AO入試	出願書類、小論文、面接
特別選抜（社会人入試）	小論文、面接（予定）
特別選抜（私費外国人留学生入試）	小論文、面接（予定）

作業療法学専攻

●修業年限／4年　●入学定員／20名
●3年次編入学定員／5名※3

●取得学位／学士（保健学）

●国家試験受験資格等※1
作業療法士

●入学者選抜方法（平成30年度入試）

一般入試	前期日程／個別学力検査
AO入試	出願書類、小論文、面接
特別選抜（私費外国人留学生入試）	小論文、面接（予定）

入学定員合計200名
3年次編入学定員
合計30名

※1受験資格を得るためには，指定する授業科目の修得が必要　※2選択により可能（但し，履修人数に制限あり）
※3修得する単位数もしくは取得を希望する資格等によっては，履修期間が3年以上になることもあります。
●入学者選抜方法等に関する詳細は，本学が発行する学生募集要項等でご確認ください。
●最近の入試の結果は弘前大学ホームページにてご覧いただけます。

【学生募集要項等の照会先】〒036-8560 弘前大学学務部入試課 電話0172-39-3122

看護学専攻

Department of Nursing

看護の技とまなざしを育み、病む人の真の力になれる人材の育成。

教育の目的

看護は、人間をそのライフスタイルの中で全人としてとらえ、個々人に即応して、人間が健康に生きることを支援します。
本専攻では、深く人間を理解する能力、問題解決力を駆使して主体的に看護を行う専門的実践力、保健医療福祉の現状や社会情勢を広く視野に入れて看護学を発展させる創造力および研究能力を育成しています。さらに、看護学の発展を目指して自ら学び続ける態度および教育的能力を持った人材の育成を目指しています。

血圧測定の様子

教育目標と関連科目

●人間や生命に対する畏敬・倫理観や看護の対象である人間への深い洞察力を育てます。
【関連科目】保健学概論、コミュニケーション論、看護対象論、看護倫理学等
●看護実践の基礎・基本となる理論を理解し、創造的に看護実践できる基礎的・専門的能力を育てます。
【関連科目】看護学概論、基礎看護学・母性看護学・小児看護学・成人看護学・在宅看護学・老年看護学・精神看護学、公衆衛生看護学の基礎となる概論・方法論・演習・実習等、セルフケア論、クリティカル・ケア論、がん看護論等
●保健、医療、福祉等の専門職者と連携・協働できる広い視野と調整能力を育てます。
【関連科目】保健学概論、社会福祉学、セクシュアリティ論等
●看護の指導的援助において専門性を発揮できる教育的能力を育てます。
【関連科目】看護教育学概論、看護教育方法論等
●看護に対する社会的ニーズの変化に主体的に柔軟に対応できる能力を育てます。
【関連科目】カウンセリング論、医療リスクマネジメント、医療情報学、社会保障論等
●看護専門職の教育や啓発に役立つ教育者・研究者としての基礎的能力を育てます。
【関連科目】卒業研究

【卒業後の進路】

●看護師（医療機関、福祉施設、保健施設、事業所等）
●保健師（市町村保健センター、保健所、医療機関，企業，学校，保健施設等）
●助産師（医療機関，助産所、保健所、市町村保健センター、事業所等）
●高等学校の教員（看護科、総合学科、福祉学科等）
●教育・研究施設
●大学院進学

看護技術演習の様子

放射線技術科学専攻

Department of Radiological Technology

放射線を利用した高度な医療技術と、深い専門性を兼ね備えた人材の育成。

教育の目的

医療技術が日々目覚ましく進歩を遂げている中で放射線技術は診療に重要な役割をもっていることから、本専攻の教育課程は放射線の基礎から高度な専門分野までの幅広い知識を確実に修得できるように配慮されています。

さらに、実際の病院実習を通して最新の医療技術を学び、チーム医療の一員として医師を含め他の医療技術者と協調して活躍できる実践的な能力を持つ診療放射線技師の養成を目指します。

教育目標と関連科目

- 人体の構造と機能及び疾病の成り立ちを理解する。
  【関連科目】保健学概論、人体形態学、人体機能学、画像解剖学等
- 専門基礎の学力向上を目指し、各種現象を科学的に説明する能力を身につける。
  【関連科目】放射線物理学、放射化学Ⅰ・Ⅱ、放射線生物学等
- 最新の各種診療放射線機器の原理と構造を理解し、画像処理や情報処理技術を習得する。
  【関連科目】解析学、医用画像情報学Ⅰ・Ⅱ、医療情報学、X線機器工学
  波動応用機器工学、放射線治療機器工学、核医学検査技術学Ⅰ等
- 臨床現場にて習得した専門基礎を確認して実践する。
  【関連科目】臨床実習Ⅰ・Ⅱ
- 大学院を視野にいれ、放射線技術科学の考察力を深めると共に研究遂行能力を身につける。
  【関連科目】医学英語演習、卒業研究等

放射線計測学実験

【卒業後の進路】

- 大学院進学
- 医療施設就職
  （病院・検診センターなど）
- 放射線管理施設就職
- 各種放射線機器関連メーカー就職

【取得可能な（目指す）免許・資格】

- 診療放射線技師
- 第1種放射線取扱主任者
- 医療情報技師（学会認定）
- 医学物理士（大学院進学希望者）

模擬検査の様子（MRI）

検査技術科学専攻

Department of Medical Technology

高度な医学専門知識を持った臨床検査技師と生命現象の解明を目指す研究者の育成。

教育の目的

遺伝子関連領域をはじめとする高度に専門化した医学検査に対応できる知識と技術を備え、問題解決に対する判断力および応用力、創造的知性を有する人間性豊かな臨床検査技師の養成を目指します。

さらに総合科学としての学問を追究する研究者の育成、臨床検査技師教育者の養成、チーム医療の一員としての協調性を備えた国際的に貢献できる人材の育成に努めます。

教育目標と関連科目

- 生命現象を総合的に理解し、医学・医療における検査の基礎を学習する。
  【関連科目】医用物理学、医用化学、医用生物学、衛生学・公衆衛生学、栄養・代謝学、人体機能学、人体形態学、人体病理学、微生物学総論等
- 検体検査、形態学検査、生理学検査、および病因・生体防御検査の知識・技術を修得し、臨床検査技師に必要な実践力を養う。
  【関連科目】尿検査学、体液検査学、臨床化学検査学、医用情報機器工学、臨床血液学、臨床免疫学、感染防御学、臨床微生物検査学、臨床ウイルス学、臨床生理学、神経・筋・感覚機能検査学、病理組織細胞検査学、内科学Ⅰ、臨地実習等
- 大学院を念頭に置き、学生の関心に応じて学習を深める。
  【関連科目】分子生物検査学、検査科学英語演習、卒業研究等
- 細胞検査士養成課程を開講（平成21年4月）し、細胞検査士に必要な知識、技術力を養う。
  【関連科目】細胞診断学講義、細胞診断学演習、細胞診断学実習

臨床微生物検査学実習

【卒業後の進路】

- 大学院進学
- 病院（大学病院, 地方公務員など）
- 検査センター・検診センター
- 製薬会社　●研究機関
- 公衆衛生施設
- 臨床検査機器メーカー・試薬メーカー
- 臨床検査技師関連認定資格職種
  （治験コーディネーター、胚培養士、超音波検査士等）

【取得可能な免許・資格】

- 臨床検査技師　●細胞検査士
- 食品衛生管理者　●食品衛生監視員

臨床血液検査学実習

理学療法学専攻

Department of Physical Therapy

豊富な知識と技能を身につけた、実践能力の高い理学療法士の育成。

教育の目的

理学療法は身体障害者や病気・ケガなどによって運動機能が低下している人々がより豊かに社会生活を送れるように運動や温熱・超音波、義肢装具などの様々な物理的手段を科学的に用いて、運動および姿勢・動作と関係する諸機能の回復・維持を図る治療法です。最近では、介護予防あるいは障害予防という観点から、中高年者の転倒予防や健康増進、スポーツ選手のコンディショニングなども理学療法の重要な役割となってきています。

本専攻では人間の体の構造と働きと運動および姿勢・動作についての知識を深め、運動機能の低下または障害とそれらに起因する生活上の問題を分析・解決する技能を養い、さらにこれらの知識および技能を障害の軽減に加えて健康の維持・増進やスポーツ場面にも広く応用できる人材の育成を目指します。

教育目標と関連科目

- 障害（者）の存在そのものを受容し、人間の喜びや苦しみを感じとれること。
  【関連科目】保健学概論、保健医療福祉倫理学、コミュニケーション論、理学療法学総論、理学療法管理・運営論、臨床心理学等
- 人間の体の構造と働きと運動および姿勢・動作を理解すること。
  【関連科目】人体形態学、人体機能学、運動学、神経系障害学Ⅰ、小児科学、老年期障害学、精神医学、筋骨格系障害学、内科学、がんリハビリテーション科学、神経系障害学Ⅱ等
- 実践的な問題解決能力と治療技術を身につけること。
  【関連科目】リハビリテーション医学、理学療法評価学、運動療法学、物理療法学、義肢装具学、日常生活活動分析学、福祉住環境学、福祉機器適合論、地域リハビリテーション論、スポーツ障害理学療法学演習、筋骨格系障害理学療法学実習、神経系障害理学療法学演習・実習、内部障害系理学療法学演習・実習、各種セミナー、臨床実習等
- 常に問題意識をもち、自己研鑽に努めること。
  【関連科目】基礎ゼミナール、理学療法研究方法論、理学療法研究演習、卒業研究

電気刺激療法の実習風景

【卒業後の進路】

- 病院、診療所
- リハビリテーションセンター
- 老人施設（介護老人保健施設，介護老人福祉施設など）
- 小児療育施設
- 身体障害者福祉関連施設
- 教育・研究施設
- 地方自治体（保健関係部局、保健所）
- 保健・福祉関連の一般企業
- 訪問介護ステーション
- 大学院進学

ストレッチングの練習風景

作業療法学専攻

Department of Occupational Therapy

全人的視点をもち、実践能力の高い作業療法士の育成。

教育の目的

作業療法は、精神的および身体的病気や加齢などによって精神機能や身体機能に障害を持った人々に対して、様々な作業活動を用いて主体的生活を営む能力の獲得を図る治療法です。

本専攻では、リハビリテーション医学を基幹に、心理学、社会学、地域リハビリテーションなど幅広い人間科学体系を学び、治療訓練、障害予防、行動評価、臨床実習、さらに健康の維持・促進のための知識・技術を身につけた、実践能力の高い作業療法士の育成をします。

教育目標と関連科目

- 人間の身体と精神を理解し、全人的視点をもつ医療人を育成する。
  【関連科目】人体形態学、人体機能学、人体病理学、運動学、内科学、神経内科学、整形外科学、精神医学、保健学概論、保健医療福祉倫理学、コミュニケーション論、医療リスクマネジメント等
- 実践的な問題解決能力と治療技術を身につける。
  【関連科目】リハビリテーション医学、救急・蘇生医学、作業療法総論、基礎作業学、作業分析学実習、身体障害作業療法学、高次脳機能障害作業療法学、発達期機能障害作業療法学、老年期機能障害作業療法学、日常生活活動能力学、精神機能障害作業療法学、精神能力障害作業療法学、臨床実習等
- 地域性や社会的ニーズにおける医療福祉サービスを理解する。
  【関連科目】身体障害地域作業療法学、精神障害地域作業療法学、生活支援作業療法学等
- 問題意識を持ち、自己研鑽に努める。
  【関連科目】基礎ゼミナール、研究方法論演習、卒業研究等

関節可動域の測定練習

【卒業後の進路】

- 国公私立病院
- 老人施設（介護老人保健施設・介護老人福祉施設）
- リハビリテーションセンター
- 小児療育施設
- ケアマネージャー
- 訪問看護ステーション
- 福祉機器指導員
- 教育機関の講師・指導者
- 大学院進学

軽作業作業療法学実習風景（籐細工）

教育課程

看護学専攻

学　年	1年次		2年次		3年次		4年次	
前後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育	■	■	■					
専門共通	■	■			■	■		■
専門基礎	■	■	■					■
専門科目	■	■	■	■	■	■	■	■
臨地実習			■	■	■	■	■	■
卒業研究						■		■
保健師*			■	■	■	■	■	■
助産師*				■	■	■	■	■
高校教諭(看護)*		■	■	■	■	■	■	■

*選択

放射線技術科学専攻

学　年	1年次		2年次		3年次		4年次	
前後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育	■	■	■					
専門共通	■	■			■	■		■
専門基礎		■	■	■	■			
専門科目			■	■	■	■	■	■
臨地実習					■	■	■	
卒業研究							■	■

検査技術科学専攻

学　年	1年次		2年次		3年次		4年次	
前後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育	■	■	■					
専門共通	■	■			■	■		■
専門基礎	■	■	■	■	■		■	■
専門科目		■	■	■	■	■	■	■
臨地実習					■	■		
卒業研究							■	■
細胞検査士*					■	■	■	

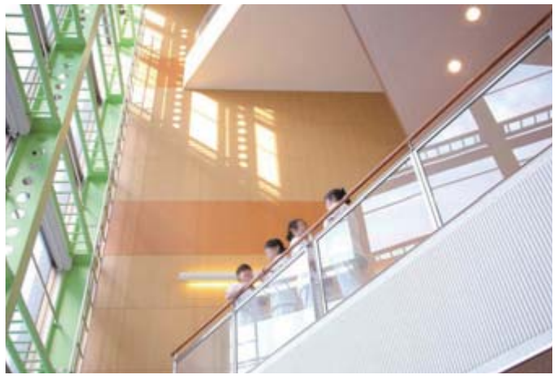
*選択

理学療法学専攻

学　年	1年次		2年次		3年次		4年次	
前後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育	■	■	■	■				
専門共通	■	■	■	■	■	■		■
専門基礎	■	■	■	■		■		
専門								
基礎理学療法学	■	■	■	■	■	■		
障害理学療法学	■	■	■	■	■	■		
臨床実習					■	■	■	
卒業研究						■		■

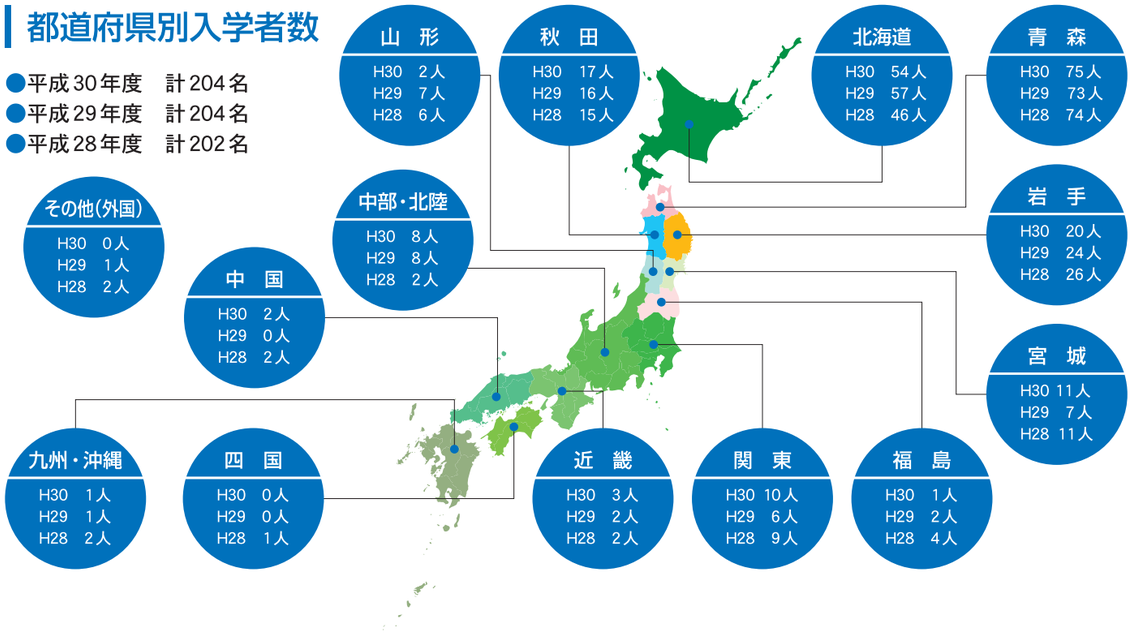
作業療法学専攻

学　年	1年次		2年次		3年次		4年次	
前後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育	■	■	■					
専門共通	■	■	■		■			■
専門基礎	■	■						
専門科目	■	■	■	■	■			
臨地実習			■	■	■	■	■	
卒業研究								■



都道府県別入学者数

- 平成30年度　計204名
- 平成29年度　計204名
- 平成28年度　計202名

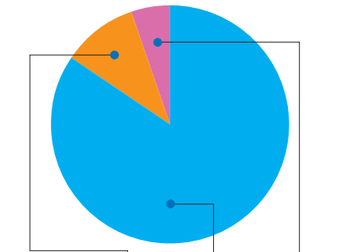


卒業後の進路

看護学専攻:N　放射線技術科学専攻:R　検査技術科学専攻:T　理学療法学専攻:P　作業療法学専攻:O

平成27年度

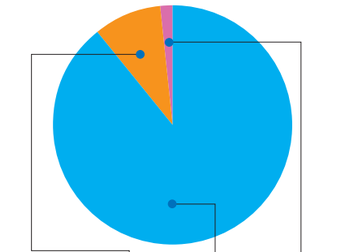
就職率　N 100.0％　R 100.0％　T 100.0％　P 100.0％　O 100.0％



卒業者数	進学者数	就職者数	その他
N 86人	N 4人	N 81人	N 1人
R 44人	R 9人	R 30人	R 5人
T 45人	T 1人	T 40人	T 4人
P 19人	P 5人	P 13人	P 1人
O 20人	O 3人	O 17人	O 0人
合計214人	合計22人	合計181人	合計11人

平成28年度

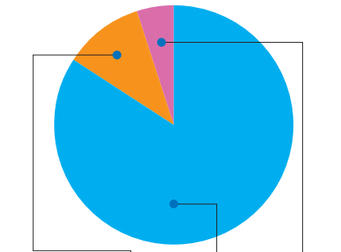
就職率　N 100.0％　R 100.0％　T 100.0％　P 100.0％　O 100.0％



卒業者数	進学者数	就職者数	その他
N 79人	N 4人	N 75人	N 0人
R 35人	R 6人	R 28人	R 1人
T 42人	T 4人	T 37人	T 1人
P 20人	P 1人	P 19人	P 0人
O 20人	O 3人	O 16人	O 1人
合計196人	合計18人	合計175人	合計3人

平成29年度

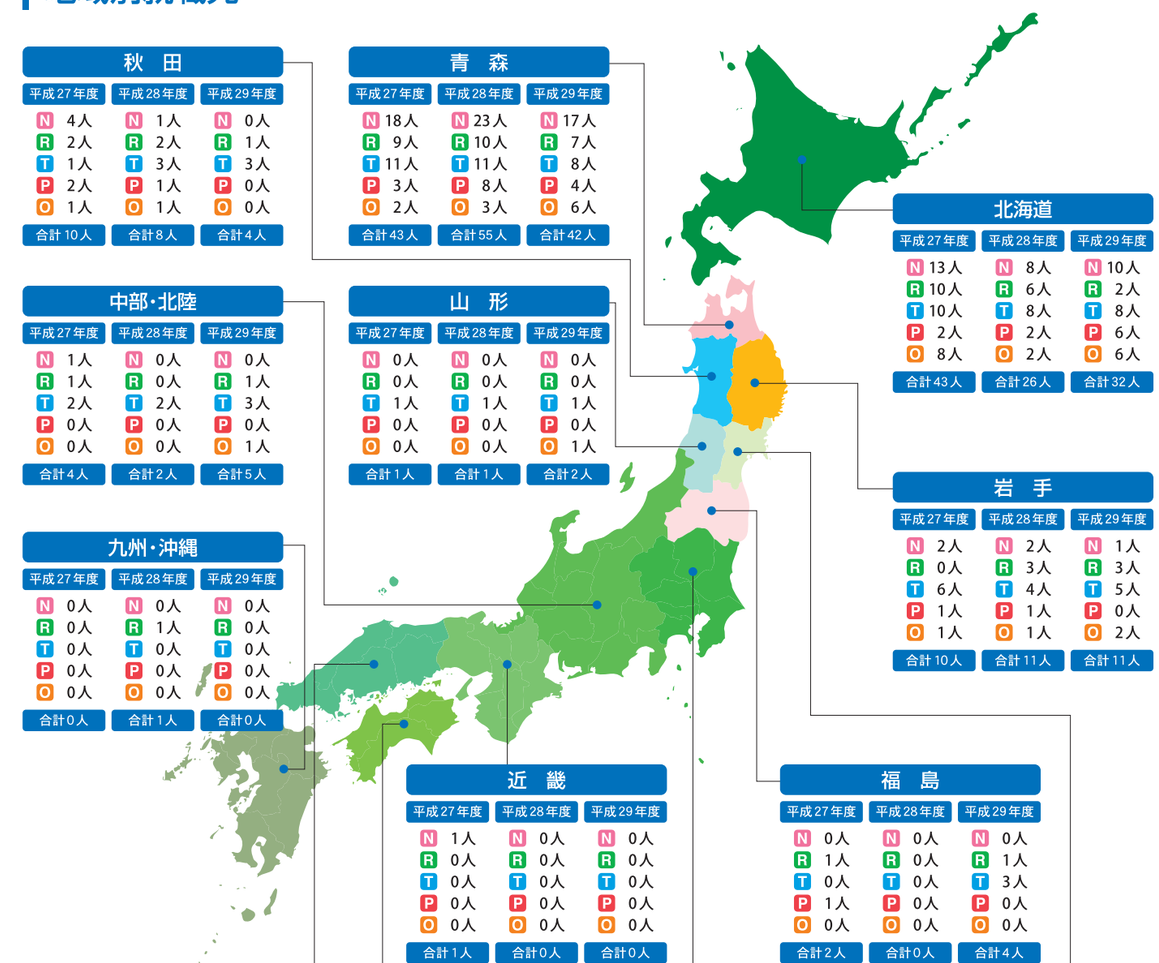
就職率　N 98.6％　R 92.0％　T 100.0％　P 100.0％　O 100.0％



卒業者数	進学者数	就職者数	その他
N 79人	N 5人	N 72人	N 1人
R 40人	R 9人	R 23人	R 6人
T 47人	T 3人	T 42人	T 2人
P 20人	P 5人	P 15人	P 0人
O 20人	O 0人	O 19人	O 1人
合計206人	合計22人	合計171人	合計10人

地域別就職先

看護学専攻:N　放射線技術科学専攻:R　検査技術科学専攻:T　理学療法学専攻:P　作業療法学専攻:O



秋　田

平成27年度	平成28年度	平成29年度
N 4人	N 1人	N 0人
R 2人	R 2人	R 1人
T 1人	T 3人	T 3人
P 2人	P 1人	P 0人
O 1人	O 1人	O 0人
合計10人	合計8人	合計4人

青　森

平成27年度	平成28年度	平成29年度
N 18人	N 23人	N 17人
R 9人	R 10人	R 7人
T 11人	T 11人	T 8人
P 3人	P 8人	P 4人
O 2人	O 3人	O 6人
合計43人	合計55人	合計42人

北海道

平成27年度	平成28年度	平成29年度
N 13人	N 8人	N 10人
R 10人	R 6人	R 2人
T 10人	T 8人	T 8人
P 2人	P 2人	P 6人
O 8人	O 2人	O 6人
合計43人	合計26人	合計32人

中部・北陸

平成27年度	平成28年度	平成29年度
N 1人	N 0人	N 0人
R 1人	R 0人	R 1人
T 2人	T 2人	T 3人
P 0人	P 0人	P 0人
O 0人	O 0人	O 1人
合計4人	合計2人	合計5人

山　形

平成27年度	平成28年度	平成29年度
N 0人	N 0人	N 0人
R 0人	R 0人	R 0人
T 1人	T 1人	T 1人
P 0人	P 0人	P 0人
O 0人	O 0人	O 1人
合計1人	合計1人	合計2人

岩　手

平成27年度	平成28年度	平成29年度
N 2人	N 2人	N 1人
R 0人	R 3人	R 3人
T 6人	T 4人	T 5人
P 1人	P 1人	P 0人
O 1人	O 1人	O 2人
合計10人	合計11人	合計11人

九州・沖縄

平成27年度	平成28年度	平成29年度
N 0人	N 0人	N 0人
R 0人	R 1人	R 0人
T 0人	T 0人	T 0人
P 0人	P 0人	P 0人
O 0人	O 0人	O 0人
合計0人	合計1人	合計0人

近　畿

平成27年度	平成28年度	平成29年度
N 1人	N 0人	N 0人
R 0人	R 0人	R 0人
T 0人	T 0人	T 0人
P 0人	P 0人	P 0人
O 0人	O 0人	O 0人
合計1人	合計0人	合計0人

福　島

平成27年度	平成28年度	平成29年度
N 0人	N 0人	N 0人
R 1人	R 0人	R 1人
T 0人	T 0人	T 3人
P 1人	P 0人	P 0人
O 0人	O 0人	O 0人
合計2人	合計0人	合計4人

中　国

平成27年度	平成28年度	平成29年度
N 0人	N 0人	N 0人
R 0人	R 0人	R 0人
T 0人	T 0人	T 0人
P 0人	P 0人	P 0人
O 0人	O 2人	O 0人
合計0人	合計2人	合計0人

四　国

平成27年度	平成28年度	平成29年度
N 0人	N 0人	N 0人
R 0人	R 0人	R 0人
T 0人	T 0人	T 0人
P 0人	P 0人	P 0人
O 0人	O 0人	O 0人
合計0人	合計0人	合計0人

関　東

平成27年度	平成28年度	平成29年度
N 34人	N 35人	N 37人
R 4人	R 3人	R 6人
T 4人	T 5人	T 6人
P 3人	P 6人	P 4人
O 4人	O 6人	O 2人
合計49人	合計55人	合計55人

宮　城

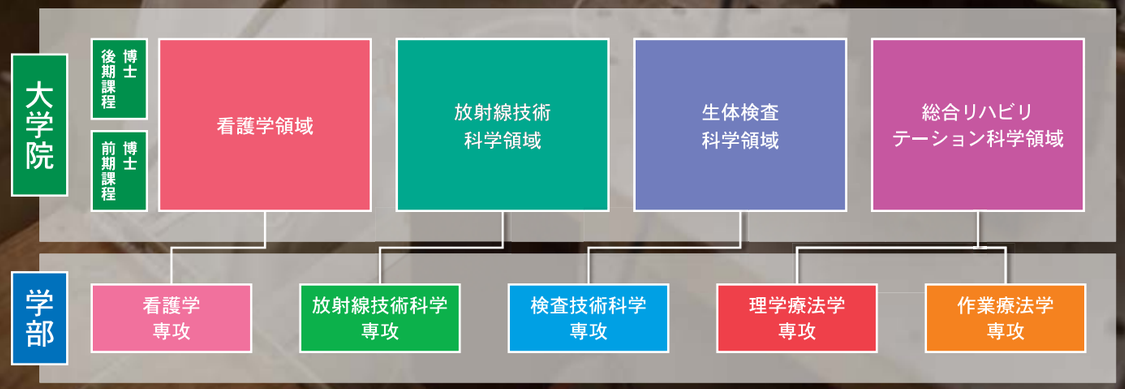
平成27年度	平成28年度	平成29年度
N 8人	N 6人	N 7人
R 3人	R 3人	R 2人
T 5人	T 3人	T 5人
P 1人	P 1人	P 1人
O 1人	O 1人	O 1人
合計18人	合計14人	合計16人

1年間の行事

4 April	5 May	6 June	7 July	8 August	9 September
●入学式 ●学年始め ●前期授業開始	●弘前大学 ●開学記念日			●オープンキャンパス ●夏季休業	

10 October	11 November	12 December	1 January	2 February	3 March
●弘前大学総合文化祭 ●後期授業開始		●卒業研究発表会 ●冬季休業		●国家試験 ●学年末休業	●卒業式 ●学年末

大学院保健学研究科



看護学領域

看護学の専門知識と倫理性を深め、教育や臨床などの場において、指導的役割を担う人材の育成。

（主研究テーマは平成31年1月現在の情報）

教　員	主研究テーマ
教　授　木　立　るり子	●継続看護に関する研究 ●在宅看護・訪問看護に関する研究
教　授　高　橋　　徹	●小児期発症心疾患の成人への移行期医療に関する研究 ●心疾患の出生前診断と管理 ●小児心疾患における神経体液因子
教　授　樋　口　　毅	●妊娠・分娩・授乳が骨密度・骨代謝に及ぼす影響
教　授　野　戸　結　花 （放射線看護高度看護実践コース教育担当教員）	●がんの症状緩和ケアに関する研究 ●被ばく医療に携わる医療者の態度に関する研究
教　授　藤　田　あけみ	●がん患者と家族のQOLに関する研究 ●患者教育に関する研究 ●健康障害のある人の日常生活の向上に関する研究
教　授　井　瀧　千恵子 （放射線看護高度看護実践コース教育担当教員）	●身体活動が生体や感情に与える影響に関する研究 ●がん放射線治療の有害事象の看護ケアに関する研究 ●看護教育における被ばく医療に関する研究
教　授　小　倉　能理子	●看護師のキャリア形成、継続教育に関する研究 ●看護師の職務満足、職場環境に関する研究 ●患者教育に関する研究
教　授　北　宮　千　秋	●健康の保持、増進へ向けた保健活動に関する研究 ●原子力災害における住民支援に関する研究
准教授　五十嵐　世津子	●女性のライフイベントに関する研究 ●生殖医療を受けている女性の看護に関する研究
准教授　三　崎　直　子	●周産期に関連する研究 ●助産ケアスキルのエビデンスに関する研究 ●母乳育児に関わる研究
准教授　則　包　和　也	●精神疾患をもつ人への治療的な看護の研究 ●認知行動療法を活用した看護の研究
准教授　佐　藤　真由美	●新卒看護師の社会化に関する研究 ●看護師の継続教育に関する研究 ●訪問看護における看護技術に関する研究
准教授　大　津　美　香	●医療問題のある認知症高齢者の看護に関する研究 ●認知症の行動・心理症状(BPSD)に関する研究 ●慢性疾患をもつ高齢者の疾病管理に関する研究 ●一般高齢者の認知症予防に関する研究
准教授　冨　澤　登志子	●クリティカルシンキングと看護診断 ●シミュレーション教育 ●糖尿病および生活習慣病の療養支援 ●抗酸化機能食品と動脈硬化
講　師　漆　坂　真　弓 （放射線看護高度看護実践コース教育担当教員）	●慢性疾患患者の看護に関する研究 ●被ばく医療看護に関する研究

指導教員についての最新情報は、2020年度弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻学生募集要項によりご確認ください。

放射線技術科学領域

求められる必要な知識と技術習得保健医療分野において、リーダーの役割を担う人材の育成。

（主研究テーマは平成31年1月現在の情報）

教　員	主研究テーマ
教授　細川　洋一郎	●放射線誘発アポトーシスのシグナル伝達に関する研究 ●放射線治療における線量分布と有害事象に関する研究
教授　齋藤　陽子	●画像診断特にMRIやX線CTにおける精度向上や臨床的有用性に関する研究 ●X線CT等における医療被曝に関する研究
教授　床次　眞司	●放射線計測技術・線量評価手法の高度化・標準化に関する研究 ●環境中の放射性物質・放射線の測定に係る評価並びに動態に関する研究 ●放射線防護体系構築のためのリスク解析研究（リスクコミュニケーション、疫学調査など）
教授　敦賀　英知	●肺胞弾性線維の放射線照射による影響評価に関する研究 ●皮膚真皮の弾性系線維の形成機構に関する研究 ●眼球毛様体小帯の改造機構に関する研究
教授　高橋　康幸	●トレーサ情報解析に関する研究 ●SPECTおよびPET画像の画質改善に関する研究 ●診療放射線技師に係る法規に関する研究 ●医療被ばく線量の低減に関する研究
准教授　廣田　淳一	●核廃棄物からの放射線を用いた発電技術の開発に関する研究 ●地域連携及び医工連携技術の医療経済に及ぼす影響に関する研究 ●粒子線治療装置の普及化に関する研究
准教授　工藤　幸清	●X線診断機器の画質・性能評価および撮影線量の最適化に関する研究 ●X線診断機器の解像度向上に関する研究 ●地域保健医療に寄与するX線画像転送に関する研究
講師　細田　正洋	●環境中の放射線および放射性核種の計測・動態評価・線量評価に関する研究 ●被ばく医療における放射線計測手法の高度化および線量評価に関する研究
講師　門前　暁	●放射線誘発急性骨髄障害の詳細な発生機序解明に関する研究 ●新規生物学的被ばく線量評価マーカーの探索

指導教員についての最新情報は、2020年度弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻学生募集要項によりご確認ください。

MRI装置での実習風景

CT撮影の練習風景

腹部単純写真撮影の練習風景

生体検査科学領域

病態因子・機序の解析、診断・治療等への開発、教育・研究生体機能・病態の解析のできる人材の育成。

（主研究テーマは平成31年1月現在の情報）

教　員	主研究テーマ
教授　渡邉　純	●子宮内膜癌細胞における性ステロイドホルモンの作用機序解析 ●子宮内膜癌の予後・予知因子の解析 ●子宮頸癌の癌化機序解析 ●組織細胞診検体の形態学的、分子病理学的およびデジタル画像解析
教授　伊藤　巧一	●マウス臍帯血移植による免疫系再構築に関する研究 ●造血幹細胞の分化・成熟に関わる分子機構の解明 ●核酸による腸管免疫制御に関する研究
教授　丹藤　雄介	●栄養関連バイオマーカー、栄養アセスメントに関する研究 ●糖尿病療養デバイスの開発と病態解析
准教授　三浦　富智	●新規細胞遺伝学的被ばく線量評価法の開発 ●染色体異常に及ぼす背景因子の解析 ●プロシアニジン類の腸管ホメオダイナミクスによる生活習慣病予防作用の解明 ●放射線生物影響調査（復興支援）
講師　藤岡　美幸	●食品媒介感染症起因菌における感染経路の科学的解明に関する研究 ●各種病原細菌における簡易検査法の開発に関する研究
講師　七島　直樹	●乳腺におけるHair keratinの機能性に関する研究 ●エキソソーム由来乳がんバイオマーカーに関する研究 ●カシスが秘める新規保健機能の探索
講師　千葉　満	●細胞外分泌小胞エキソソームの機能に関する研究 ●癌と機能性RNAに関する研究 ●癌の浸潤・転移の分子機構に関する研究 ●早期発見のための疾患バイオマーカー同定に関する研究
助教　吉岡　治彦	●紫外・可視顕微分光法を用いたがん細胞の病理組織細胞学的解析 ●がん早期発見のための形態学的解析 ●病理画像解析によるがん細胞の特徴抽出 ●病理組織細胞検査の精度管理と検査技術法の確立

指導教員についての最新情報は、2020年度弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻学生募集要項によりご確認ください。

総合リハビリテーション科学領域

実践の場でリーダーシップを発揮できる能力を養い、評価・治療の実証・開発ができる人材の育成。

（主研究テーマは平成31年1月現在の情報）

教　員	主研究テーマ
教　授　石　川　　玲	●運動中の呼吸循環応答および自律神経活動に関する基礎的研究 ●内部障害、筋ジストロフィーにおける障害評価に関する研究 ●腰痛予防に関する研究
教　授　小山内　隆　生	●精神障害者のQOL向上のための研究 ●精神障害者の社会参加促進のための研究 ●認知症高齢者の地域生活支援に関する研究 ●認知症高齢者の介護者支援に関する研究
教　授　山　田　順　子	●脳の性差とこころの性差に関する神経生理学的解析 ●モデル動物を用いたリハビリテーションと脳の可塑性の研究 ●中枢神経系のGABA抑制機構を中心とした神経回路機能の研究 ●放射線照射による脳機能への影響に関する研究 ●早期介入のための発達障害児の病態研究
教　授　尾　田　　敦	●足部機能と身体運動能力の関連性に関する研究 ●足部および下肢障害に対する足底挿板療法についての実践的研究 ●スポーツ障害に対する理学療法評価・治療に関する研究 ●運動連鎖に伴う姿勢変化に関する研究
教　授　和　田　一　丸	●統合失調症を中心とする精神疾患の臨床および社会精神医学的側面に関する研究 ●てんかんをもつ人の治療経過と予後に関する研究
准教授　加　藤　拓　彦	●精神障がい者への社会生活支援に関する研究 ●精神障がい者の作業能力に関する研究
准教授　髙　見　彰　淑	●脳卒中患者の歩行機能評価，治療に関する研究 ●脳卒中患者のリスク管理に関する研究 ●脳卒中患者の評価指標に関連する研究 ●臨床上の評価指標全般に関する研究
准教授　對　馬　栄　輝	●骨関節疾患における運動学・運動力学的な動作の評価について ●筋電図を用いた筋出力特性・運動分析について ●疾患から健康までの疫学研究と統計的手法の活用
准教授　吉　田　英　樹	●生理学的，運動学的評価指標を活用した物理療法および運動療法のエビデンス確立に関する研究 ●運動療法と物理療法の協働（併用・同時施行）の有効性に関する研究 ●物理療法を用いたヘルスプロモーション（精神・身体リラクセーション、ストレスマネジメント、障害予防など）に関する研究 ●脳血管障害などの中枢神経障害患者、高齢者の理学療法評価、治療に関する研究
講　師　平　川　裕　一	●生活行為における身体運動・動作の解析とその治療的応用に関する研究 ●福祉用具の開発に関する研究 ●地域住民の健康増進・介護予防に関する研究
講　師　上　谷　英　史	●身体障害者に対する日常生活活動の評価および治療に関する研究 ●福祉用具の開発に関する研究 ●地域住民の介護予防に関する研究
講　師　小　枝　周　平	●発達障害を有する子どもの運動・栄養に関する研究 ●高齢者の精神医学的側面に関する研究 ●整形外科疾患の作業療法治療に関する研究

指導教員についての最新情報は、2020年度弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻学生募集要項によりご確認ください。

車椅子利用者への介助の練習

電気刺激の鎮痛効果に関する実験

装具作製の練習

看護学領域

看護学の幅広い学識と高度な専門知識および倫理性を深め、教育・研究者として実践できる人材の育成。

（主研究テーマは平成31年1月現在の情報）

教　員	主研究テーマ
教　授　高　橋　　徹	●小児期発症心疾患の成人への移行期医療に関する研究 ●心疾患の出生前診断と管理 ●小児心疾患における神経体液因子
教　授　樋　口　　毅	●婦人科悪性腫瘍の治療が骨・血管系に及ぼす影響
教　授　野　戸　結　花	●看護における放射線防護に関する研究 ●リンパ浮腫に対する複合的療法の有効性、セルフケア支援、発症予防に関する研究
教　授　藤　田　あけみ	●がん患者と家族のQOLに関する研究 ●患者教育に関する研究
教　授　井　瀧　千恵子	●身体活動が生体や感情に与える影響に関する研究 ●看護教育における被ばく医療に関する研究
教　授　小　倉　能理子	●看護師のキャリア形成、継続教育に関する研究 ●看護師の職務満足、職場環境に関する研究 ●患者教育に関する研究
教　授　北　宮　千　秋	●健康の保持、増進へ向けた保健活動に関する研究
准教授　大　津　美　香	●認知症高齢者の看護に関する研究 ●疾病管理に関する研究
准教授　冨　澤　登志子	●シミュレーション教育とアクティブラーニング ●クリティカルシンキングと看護診断 ●糖尿病および生活習慣病の療養支援 ●抗酸化機能食品と動脈硬化

指導教員についての最新情報は、2020年度弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻学生募集要項によりご確認ください。

皮膚温、血流量などを測定できる装置を用いた実験風景

自治体との連携で実施している高齢者のお元気度調査

ストレス状態を測定するために試薬を調合している場面

看護師が行う患者観察の特徴についてアイカメラを用いてデータ収集している場面

放射線技術科学領域

保健医療の課題に対して、新しい発想と創造的思考力を持った人材の育成。

（主研究テーマは平成31年1月現在の情報）

教　員	主研究テーマ
教授　細川　洋一郎	●放射線誘発アポトーシスのシグナル伝達とフリーラジカルに関する研究 ●放射線治療における線量測定と線量計算に関する研究
教授　齋藤　陽子	●MRIやCT検査等の画像診断における撮像方法の最適化と生命予後に及ぼす影響等の有用性の検討 ●画像診断における被曝等の問題点と生命予後に及ぼす影響等の有用性の検討
教授　床次　眞司	●放射線計測技術・線量評価手法の高度化・標準化に関する研究 ●環境中の放射性物質・放射線の測定に係る評価並びに動態に関する研究 ●放射線防護体系構築のためのリスク解析研究（リスクコミュニケーション、疫学調査など）
教授　敦賀　英知	●肺胞弾性線維の放射線照射による影響評価に関する研究 ●皮膚真皮の弾性系線維の形成機構に関する研究 ●眼球毛様体小帯の改造機構に関する研究
教授　高橋　康幸	●トレーサ情報解析に関する研究 ●SPECTおよびPET画像の画質改善に関する研究 ●診療放射線技師に係る法規に関する研究 ●医療被ばく線量の低減に関する研究
講師　細田　正洋	●環境中の放射線および放射性核種の計測・動態評価・線量評価に関する研究 ●被ばく医療における放射線計測手法の高度化および線量評価に関する研究
講師　門前　暁	●放射線誘発急性骨髄障害の詳細な発生機序解明に関する研究 ●新規生物学的被ばく線量評価マーカーの探索

指導教員についての最新情報は、2020年度弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻学生募集要項によりご確認ください。

授業風景

実験発表会の練習風景

放射線機器工学の実験風景

生体検査科学領域

生体機能及び病因・病態解析に係る教育・研究を行い、多様な問題を解決するための独創性と実行力を兼ね備えた人材を育成。

（主研究テーマは平成31年1月現在の情報）

教　員	主研究テーマ
教授　渡邉　純	●子宮内膜癌細胞における性ステロイドホルモンの作用機序解析 ●子宮内膜癌の予後・予知因子の解析 ●子宮頸癌の癌化機序解析 ●組織細胞診検体の形態学的、分子病理学的およびデジタル画像解析
教授　伊藤　巧一	●マウス臍帯血移植による免疫系再構築に関する研究 ●造血幹細胞の分化・成熟に関わる分子機構の解明 ●核酸による腸管免疫制御に関する研究
教授　丹藤　雄介	●疾患と栄養素代謝の変化 ●膵外分泌・消化吸収機能の研究 ●膵線維化、炎症における細胞内情報伝達システムの解析
准教授　三浦　富智	●新規細胞遺伝学的被ばく線量評価法の開発 ●染色体異常に及ぼす背景因子の解析 ●プロシアニジン類の腸管ホメオダイナミクスによる生活習慣病予防作用の解明 ●放射線生物影響調査（復興支援）
講師　七島　直樹	●カシスの新規保健機能の探索 ●皮膚におけるestrogen-related receptorの機能解析 ●乳腺におけるhair keratinの機能解析
講師　千葉　満	●細胞外小胞エキソソームの機能に関する研究 ●癌と機能性RNAに関する研究 ●癌浸潤・転移に関する研究 ●疾患の早期発見バイオマーカーに関する研究

指導教員についての最新情報は、2020年度弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻学生募集要項によりご確認ください。

各種病原菌における科学的解明に関する研究

特殊培地による感染症起因菌の観察

ディスカッション顕微鏡を用いたがん細胞の形態研究

総合リハビリテーション科学領域

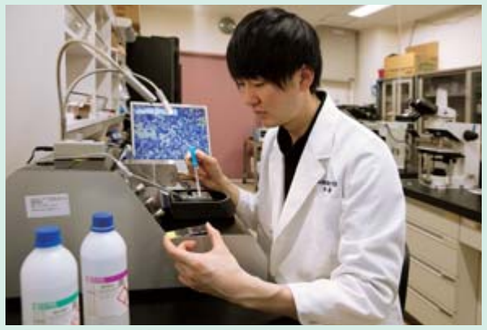
理学療法学及び作業療法学の幅広い学識と高度な専門知識および、倫理性を深め“未解明のエビデンスの探究・蓄積”ができる人材の育成。

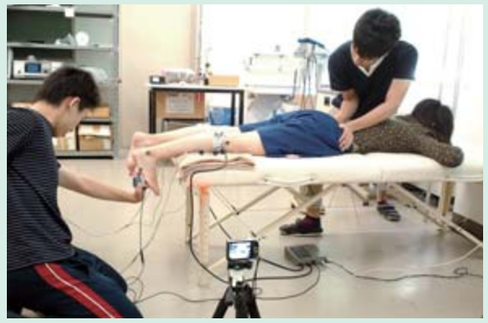
（主研究テーマは平成31年1月現在の情報）

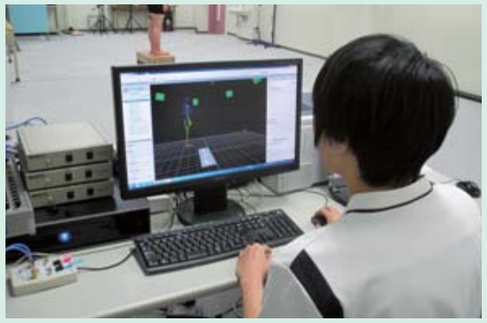
教　員	主研究テーマ
教　授　小山内　隆　生	●精神障害者のQOL向上のための方策 ●認知症高齢者のQOLに関する研究
教　授　山　田　順　子	●新規リハビリテーション法開発へむけた神経可塑性の研究 ●生理学的手法を用いた脳の発達・再生・可塑性・病態メカニズムの研究 ●放射線照射による脳機能への影響に関する研究 ●脳の性差、こころの性差に関する研究 ●発達障害者の病態メカニズムの研究および早期介入法の開発
教　授　尾　田　　敦	●足部機能と身体運動能力の関連性に関する研究 ●足部および下肢障害に対する足底挿板療法についての実践的研究 ●スポーツ障害に対する理学療法評価・治療に関する研究 ●運動連鎖に伴う姿勢変化に関する研究
教　授　和　田　一　丸	●統合失調症者に対する精神科作業療法の有効性に関する研究 ●てんかんをもつ人の臨床経過と社会的予後に関する研究
准教授　髙　見　彰　淑	●脳卒中患者の歩行機能評価、治療に関する研究 ●脳卒中患者のリスク管理に関する研究 ●脳卒中患者の評価指標に関連する研究 ●臨床上の評価指標全般に関する研究
准教授　對　馬　栄　輝	●骨関節疾患における運動学的な動作の評価について ●筋電図を用いた筋出力特性・運動分析について ●疾患から健康までの疫学研究と統計的手法の活用
准教授　吉　田　英　樹	●生理学的、運動学的評価指標を活用した物理療法および運動療法のエビデンス確立に関する研究 ●運動療法と物理療法の協働（併用・同時施行）の有効性に関する研究 ●物理療法を用いたヘルスプロモーション（精神・身体リラクセーション、ストレスマネジメント、障害予防など）に関する研究 ●脳血管障害などの中枢神経障害患者、高齢者の理学療法評価、治療に関する研究

指導教員についての最新情報は、2020年度弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻学生募集要項によりご確認ください。

染色による雌マウス性周期の判定


生理学的手法に用いる脳スライス切片作成


ストレッチングに関する実験


三次元動作解析の実験

被ばく医療コース

博士前期課程及び博士後期課程において、被ばく医療コースの選択が可能です。人材育成の目的、到達目標は以下のとおりです。

なお、被ばく医療コースを修了した者には、博士前期課程においては「被ばく医療認定士」、博士後期課程においては本研究科博士前期課程被ばく医療コースを修了済みの者に限り、「被ばく医療指導士」の称号が付与されます。

また、被ばく医療コースには、定員や人数制限等の定めはありません。

ただし、被ばく医療コースの修士論文、博士論文のテーマは、放射線に関連したものとなります。

博士前期課程被ばく医療コース

放射線にかかわる緊急被ばく事故に備えることができる人材として、緊急被ばく医療に関する高度専門職やリーダーを養成するとともに本分野の学問の発展に貢献できる教育者・研究者を育成する。

【目　　的】

放射線にかかわる緊急被ばく事故に備えることができる人材として、緊急被ばく医療に関する高度専門職やリーダーを養成するとともに本分野の学問の発展に貢献できる教育者・研究者を育成する。

【到達目標】

①緊急被ばく医療に関する専門的知識・技術を習得する。
②緊急被ばく医療分野において求められるリーダーシップ能力を習得する。
③緊急被ばく医療に関する教育・研究的能力を習得する。

博士後期課程被ばく医療コース

【目　　的】

放射線にかかわる緊急被ばく医療における高度な教育者および研究者を養成し、本分野の学問の発展に貢献できる人材を育成する。

【到達目標】

①緊急被ばく医療に関する高度な専門的知識と技術を習得する。
②緊急被ばく医療分野において求められる研究手法を習得し、これを展開できる。

放射線看護高度看護実践コース

博士前期課程に、放射線看護高度看護実践コースを設置しています。教育目的・教育目標は以下のとおりです。なお、本コースを修了した者には、「放射線看護高度実践看護師」の称号が付与されます。また、本コースは日本看護系大学協議会から放射線看護専攻教育課程（専門看護師教育課程）の認定を受けています。

【教育目的】

本コースは、放射線被ばくや放射線防護に関する高度な専門知識・技術を基盤とし、施設や地域における個人や集団の放射線被ばく防護対策に従事すると共に、放射線被ばくに関連した複雑な健康問題を持つ個人、家族および集団に対して高度看護実践を行うことのできる人材の育成を目指します。

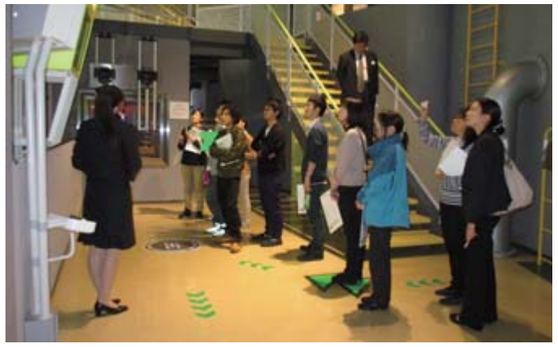
【教育目標】

①放射線被ばくや放射線防護に関する高度な専門知識・技術を活用し、顕在あるいは潜在した放射線の人体影響を有する対象への高度看護実践を行うことができる。
②放射線被ばくを最小限にするための的確な臨床判断と管理を行うことができる。
③個人や集団が放射線に関する正しい知識を有し、自らの健康を守るための判断と行動ができるように教育・啓発活動及び相談活動ができる。
④看護職者に対して、放射線看護に必要な知識及び技術に関する教育・相談活動ができる。
⑤放射線看護に必要な教育・医療システムの調整を行うことができる。
⑥放射線看護に関する倫理的課題に対し的確な判断を行い、解決に向けて支援を行うことができる。
⑦放射線看護に関する専門的知識や技術の向上に資する看護研究を行うことができる。

被ばく研修受講の様子

除染処置の様子

六ヶ所オフサイトセンター見学の様子


原子力発電PR施設見学の様子

研究体制の特色

特定プロジェクト教育研究センター

保健学研究科の特徴ある教育、研究及び社会貢献を展開するため、下記の「特定プロジェクト教育研究センター」を設置し、積極的な活動を展開しています。

地域保健医療教育研究センター

近年、社会構造や環境の変化により、人々の健康を取り巻く状況は大きく変化しています。糖尿病などを中心とした生活習慣病への取組、病院から在宅ケア・リハビリテーションまで一貫した継続ケアの充実へ向けた取組などは、保健学研究科の掲げるミッションとしても位置づけられています。「地域保健医療教育研究センター」は、保健学研究科の特徴である多職種連携を最大限に発揮し、上述した“保健医療の課題解決”に向けた教育・研究・地域貢献活動を、医学部附属病院「地域連携室」ならびに医学研究科「健康・スポーツ医科学センター」と連携協力しながら推進しています。

生体応答科学研究センター

生体応答科学研究センターは平成20年度に大学院保健学研究科に新設されて以来、平成25年度までの6年間、教育・研究及び社会貢献において多くの成果を挙げてきました。これまでの成果を基に、平成26年度から組織を見直し、緊急被ばく医療を担う地域の求める特色ある人材の育成及び被ばく医療等に関する研究、さらには大学院保健学研究科のミッションでもあるストレス対応など地域の健康課題にむけた教育研究や、国際的視野を有する人材育成を促進する原動力としての特色ある研究プロジェクトを推進しています。

特定プロジェクト教育研究センターの活動内容についての最新情報は、弘前大学医学部保健学科・大学院保健学研究科ホームページによりご確認ください。

学校支援

生活支援制度

●入学料・授業料免除制度

経済的理由、災害等によって入学料又は授業料を納めることが困難な場合は、免除や徴収猶予の制度があります。

●大学院振興基金

大学院の振興を図るため、経済的に困窮した学生に対し、授業料に係る修学支援の制度があります。

●日本学生支援機構奨学金制度

経済的理由により著しく修学の困難な者に対し、日本学生支援機構が行う奨学金貸与の制度があります。

●その他奨学金制度

経済的理由により著しく修学に困難な者に対し、日本学生支援機構以外の民間団体、地方団体等が行う奨学金貸与の制度のほか弘前大学独自の奨学金制度があります。

研究支援制度

●大学院生研究費支援事業

博士前期課程2年次に在籍する優秀な大学院生に対し、研究費を支援する制度があります。

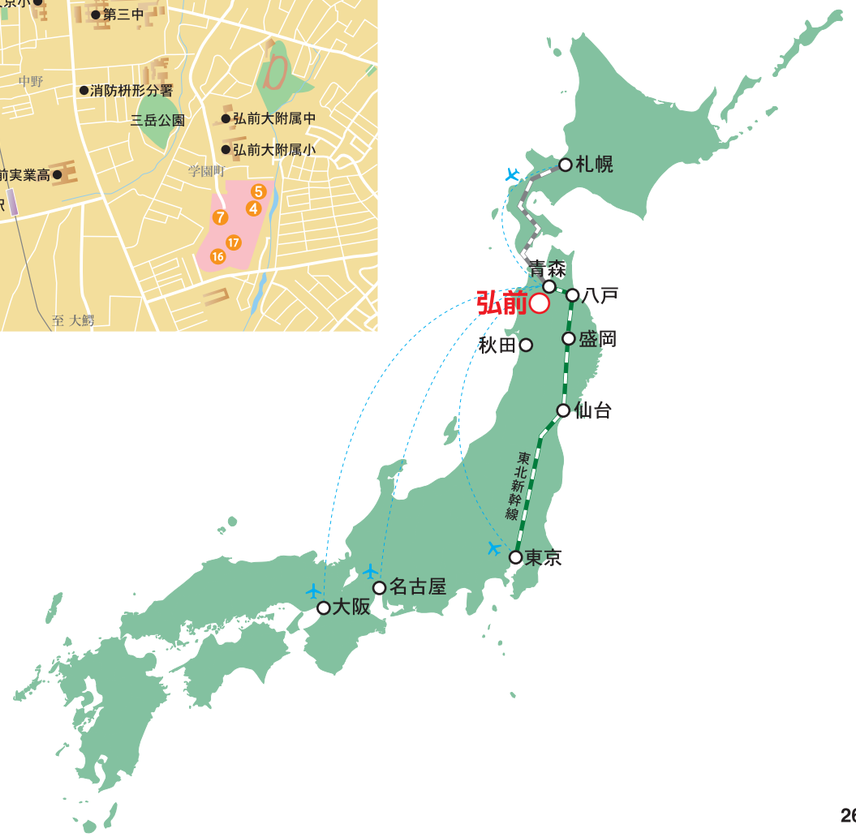
所在地

弘前大学所在機関所在略図（弘前市）

❶事務局　❷人文社会科学部　❸教育学部
❹附属小学校　❺附属中学校　❻附属特別支援学校
❼附属幼稚園　❽理工学部　❾医学部医学科
❿附属病院
⓫医学部保健学科／大学院保健学研究科
⓬農学生命科学部　⓭総合教育棟　⓮附属図書館
⓯保健管理センター　⓰北鷹寮（男子）
⓱朋寮（女子）　⓲北溟寮（男子）

本学までの案内

1.JR奥羽本線弘前駅下車
（1）駅前からバス
●桔梗野又は金属団地経由桜ヶ丘団地行き
　本町バス停下車……徒歩2分
●駒越経由藤代行き
●茂森新町行き
●四中校行き
　大学病院前バス停下車……徒歩1分
（2）駅前からタクシー……約10分
2.弘南鉄道中央弘前駅下車……徒歩7分



医学部保健学科 アドミッション・ポリシー

1）医学部保健学科が求める学生像

医学部保健学科では、保健医療の高度な知識及び技術を習得し、豊かな人間性と問題解決能力を備え、創造性、独創性と国際的視野を有し、社会で活躍できる人材の育成を目的としています。

そのような人材の育成を目指すにあたって、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）と「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を十分に理解し、保健医療専門職が掲げる目的を意識し、社会貢献に意欲がある人、保健医療専門職のための教育を受ける十分な学力と強い意欲・行動力のある人、他人を思いやるやさしさと社会性のある人を求めます。医学部保健学科には、看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻の5専攻があります。専攻ごとに、次にあげるような学生を求めます。

【看護学専攻】
- 実践の科学である看護学を修めるために必要な基礎学力を有する人
- 思考力・判断力・表現力を発揮し、協働して社会に参画する行動力を有する人
- 自ら健康維持に努め、知識・技能を修め、知的・人格的に成長しようとする意欲のある人

【放射線技術科学専攻】
- 入学後に修める教養教育と診療放射線技師養成のための専門教育の基礎となる学力を有する人
- チーム医療の一員として他の医療技術者と協調して参画する行動力のある人
- 生涯にわたり向上心・探究心を持ち続け、知的・人格的に成長しようとする意欲のある人

【検査技術科学専攻】
- 臨床検査技師の知識と技術を修得できる十分な基礎学力を備えた人
- チーム医療の一員として活躍できる協調性を有し、保健医療の発展のために積極的に行動できる人
- 保健医療が進歩発展する中で直面する課題の解決に意欲のある人

【理学療法学専攻】
- 人の健康と体の動きに関心を持ち、理学療法学を科学的に探求できる基礎学力を備えている人
- 尊敬，思いやり，協調を基調とする態度が身についており、障害者等が抱える様々な問題の解決に努力を惜しまずに取り組むことができる人
- 理学療法士を目指す意志が強く、障害者等のリハビリテーションに貢献したいという意欲が旺盛な人

【作業療法学専攻】
- 作業療法士の知識技術等を修得するのに十分な基礎学力を有する人
- チーム医療の一員として活躍できる協調性を有し、リハビリテーション医療の発展のために積極的に行動できる人
- リハビリテーション医療が進歩発展するなかで直面する課題の解決に意欲ある人

2）入学者選抜の基本方針

いずれの専攻で学ぶ場合も、高等学校における多くの学習内容が基礎的な知識として必要となります。それぞれの保健医療専門職を目指すためには、国語、外国語（英語ほか）の学習によるコミュニケーション能力、数学、理科（物理、化学、生物ほか）の学習による生命現象を理解する能力、社会（世界史、日本史、倫理、政治、経済ほか）の学習による社会状況を見通す能力の基礎知識を身につけておく必要があります。

（1）前期日程

大学入試センター試験、個別学力検査及び調査書の結果を総合して選抜します。主として大学入試センター試験の成績では基礎学力を、個別学力検査では、考察力、推理力、論理的思考力、記述力を基準に評価します。

（2）AO入試 II

大学入試センター試験、面接、小論文及び出願書類（調査書、自己PR 書）の結果を総合して選抜します。主として大学入試センター試験の成績では基礎学力を、小論文では論理的思考能力・表現力等を、面接及び出願書類（調査書、自己PR 書）では保健医療専門職者としての資質、適性、意欲等を評価します。

（3）第3年次編入学

保健医療専門職者としての向上力、意欲等を評価するために、学力検査、小論文、面接及び提出書類の結果を総合して選抜します。

（理学療法学専攻以外では、提出書類は面接の基礎資料です。）

医学部保健学科 カリキュラム・ポリシー

医学部保健学科では、高度の医療技術はもとより、豊かな人間性と倫理性を兼ね備え、国民の健康と福祉に貢献できる保健医療の専門職の育成を目的とした、教養教育と専門教育のカリキュラム・ポリシーを次のように定めます。

1）教養教育について
- 幅広い教養と外国語の運用能力を身に付け、保健医療分野の国際状況や地域状況を的確に見極める力を養います。
- 基礎ゼミナール等で培った実践的学習能力をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに、保健医療分野の課題を発見・解決する力を養います。

2）専門教育について
- 専門共通科目では、各専攻に共通して必要な基礎科目の他、コア科目を設けています。コア科目は、保健医療専門職の立場から他領域を理解するとともに、保健医療への考え方及び保健医療専門職者としての資質の育成を目指します。
- 専門基礎科目及び専門科目は、養成する保健医療専門職の国家試験受験資格を満たすために必要な科目であり、1年次から専門科目を組み込んだ模型の構成とし、講義の後に演習・実習を展開します。

3）各専攻について

【看護学専攻】
- 看護専門職に必要な知識を体系的に教授することで、人間や社会への洞察を深化させ見通す力を身に付けます。
- 看護学の専門知識を活用し、社会的ニーズの変化に気づき柔軟に対応し、チーム医療の一員として、他職種と連携・協働、調整能力を発揮し問題を解決していく力を培います。
- 看護専門職の教育や啓発に役立つ基礎的能力を身につけ、創造力と探求の習慣を確立し、生涯にわたって看護学を発展・向上させようと学び続ける力を培います。

【放射線技術科学専攻】
- 専門知識と技術を統合するよう体系的に教授することで、論理的思考と客観的判断に基づく洞察力を養います。
- 放射線技術の専門知識を最新の医療技術に応用し、高度な専門知識を活かして問題を解決するための学術的問題解決能力を養います。
- 診療放射線技師として、日々目覚ましく進歩を遂げる医療技術を学び、探求する習慣を獲得します。

【検査技術科学専攻】
- 臨床検査技師として必要な実践力を習得すると共に、専門知識と判断力をもって保健医療の一端を担う臨床検査学の諸問題を的確に見極める能力を身につけます。
- チーム医療の一員として地域の保健医療に貢献できる連携能力を身につけ、問題解決能力を高めます。
- 臨床検査技師として、保健医療分野の諸問題を探求し学び続ける力を獲得します。

【理学療法学専攻】
- 理学療法学の専門的知識とリハビリテーション関連領域の知識を学ぶことにより、理学療法の対象者が抱える諸問題を的確に分析する力を身につけるとともに、保健医療福祉の観点から理学療法学の課題を見極める力を身につけます。
- 理学療法の対象者や取り巻く家族等が抱える問題を、理学療法のみならず、専門職連携などにより多面的に解決する実践的な力を身につけます。
- 理学療法士の見識と職業倫理を、実践等を通して培い、生涯を通じて自己研鑽に努め、理学療法学の発展や教育に寄与できる力を身につけます。また、理学療法学の学術的課題を計画的および論理的に解決するための手法を研究方法の学習と体験を通して身につけます。

【作業療法学専攻】
- 作業療法士に必要とされる実践力を習得し、専門知識と判断力をもってリハビリテーション医療に関わる作業療法学の諸問題を的確に見極める能力を身につけます。
- チーム医療の一員として地域のリハビリテーション医療に貢献しうる力を身につけ、問題解決能力を高めます。
- 作業療法士として、リハビリテーション医療分野の諸問題を探求し学び続ける力を獲得します。

医学部保健学科 ディプロマ・ポリシー

医学部保健学科では、上述のカリキュラム・ポリシーに基づいて編成された教育課程にそって保健医療分野における専門知識・技能等を習得するとともに、豊かな人間性と倫理性を兼ね備え、国民の健康と福祉に貢献できる者に対して、看護学専攻は学士（看護学）の学位を、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻は学士（保健学）の学位を授与します。

具体的には、つぎの目的に達していることが学位取得の要件となります。
- 教養教育と専門教育をとおして培った幅広い知識と各保健医療専門職としての専門的な知識・技術をもとに、保健医療分野の動向を見通す力を身につけていること
- 修得した専門的知識・技術を保健医療の場で活かすことにより、直面する課題を解決する力をもっていること
- 医療専門職者として保健医療を正しく認識し社会貢献を意識し、生涯にわたり自分自身を成長させていくための探求力を身につけていること

保健学研究科保健学専攻博士前期課程 アドミッション・ポリシー

◎保健学専攻

1 概要

（1）基本理念

保健学は、人間を身体的・精神的・社会的に全人的な存在としてとらえ、人々の健康について探求し、健康と福祉の向上に寄与する学問領域です。弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻（博士前期課程）では、保健学の領域における教育と研究を通して、その成果を社会に還元することにより、人類の健康と福祉の向上に寄与することを基本理念とします。

（2）教育目標

①高度専門知識・技術を持つ人材の育成

高度な専門知識と技術を有し、理論の構築とそれに対応した実践、新しい技術開発のできる人材を育成します。

②管理実践能力を持ち、指導的立場を担える人材の育成

多様な専門職の連携によりチーム医療を実践し、新しい視点と戦略をもってリーダーシップを発揮できる人材を育成します。

③地域で活躍している保健医療専門職の能力開発

保健医療専門職の現職者が就学しやすい教育体制を整備し、地域保健医療福祉の充実・向上に貢献できる人材育成を目指します。

④教育・研究者の育成

博士前期課程を修了後、博士後期課程へ進学することを視野に入れ、新たな研究分野を自ら開拓しうる資質の高い教育・研究者を育成します。

2 求める学生像
- 人間の健康とその維持・増進に興味を持ち、広く社会に貢献したいという強い意欲のある学生
- 保健学領域における学問分野の基礎を修得し、先端的な研究に挑戦する強い目的意識を持っている学生
- 旺盛な探究心と学習意欲を持ち、自ら考え、行動することのできる学生
- 各専門領域における実務や研究面でリーダーシップを発揮し、国際的な視点から活躍できる学生
- 関連領域にも興味を持ち、領域や分野の垣根を越えて協働的に連携できる学生

3 入学前に身に付けておいてほしいこと
- 医療専門職として活躍するために必要な基礎的知識と技術
- 保健医療分野で活躍する専門職として求められる、医療チームの中での有機的な連携のあり方
- 各専門分野の医療技術に関する知識を統合して問題を解決するための基礎的知識と方法論
- 各専門分野の発展に不可欠な研究的視点と基礎的研究方法

4 入学者選抜の基本方針

総合的学力及び研究に対する探求心、意欲等を評価するために、筆記試験（英語）及び口述試問の結果を総合して選抜します。

（提出書類は、口述試験の基礎資料として使用します。）

【看護学領域】

1 概要

看護学領域は、看護学の教育・倫理・管理学の基本概念となる課題を取り上げるとともに、各ライフステージにおける健康の保持・増進及び在宅療養と看取りを見据えた生活支援のための授業科目を設けています。

看護学の専門知識と倫理性を深め、教育・研究者としての能力開発、臨床・地域保健医療活動の場において指導的役割を担う人材の育成を目指しています。

2 求める学生像
- 専門知識と関連する他領域の専門知識を包括的・多角的に理解し、教育・研究できる人
- 臨床・地域保健医療活動の場において、問題の本質を倫理的・科学的に分析し解決できる人
- 様々な状況において、自己管理、協働、プレゼンテーションができる人
- 他領域の専門職者と連携して保健医療分野の発展に寄与できる人

【放射線技術科学領域】

1 概要

保健医療分野において求められる必要な知識と技術習得と共に、当該分野でのリーダーの役割を担う人材の育成を目指しています。

2 求める学生像
- 自らの目的意識と旺盛な知的好奇心を有する人
- 論理的思考力と客観的判断力を有する人
- 異分野他職種とコミュニケーションが取れる人

【生体検査科学領域】

1 概要

生体検査科学領域において、生体機能科学及び病因・病態解析科学に関する専門的知識と技術を有し、保健医療の現場で高い倫理観と研究心に基づいたリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。

2 求める学生像
- 自らの専門分野のみなず他分野の研究領域にも広く興味を持てる人
- 生命の仕組みや病気の原因、検査法、診断法及び治療法について強い探究心を持った人
- 国際人として他国の保健医療事情及び保健医療従事者や研究者との交流に意欲のある

【総合リハビリテーション科学領域】

1 概要

理学療法学及び作業療法学を基盤として、運動・精神障害の回復や生活活動の向上を目的とした評価・治療の実証・開発ができる人材を育成します。また、生活環境要因が健康や障害に及ぼす影響や住環境整備などの発展的な範囲まで視野に入れた研究も展開します。新しい医療技術や医療機器を開発でき、保健医療に貢献できる高度な専門技術を有し、実践の場でリーダーシップを発揮できる能力を養います。

2 求める学生像
- リハビリテーション科学領域の専門分野に対して関心のある人
- リハビリテーション科学領域で扱う評価・治療、障害予防における科学的基盤を確立することに意欲を持った人
- 保健医療の現状改善を図る実践能力と、地域の保健医療に貢献できる高度専門職としての役割を担う能力を修得しようとする姿勢を持った人

保健学研究科保健学専攻博士前期課程 カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー

1 修了時の到達目標
- 高度な専門知識と技術を基盤として理論や確立途上のエビデンスを追求し、それに対応した実践や新しい技術を開発することができる。
- 様々な専門職の連携によりチーム医療を実践し、新しい視点と戦略をもってリーダーシップを発揮することができる。

2 教育課程編成の方針
- 共通コア科目は、医療チームの中で指導的役割を果たせるコ・メディカルスタッフ養成のための共通した知識の修得及び具体的な修士論文作成に当たっての学際的研究手法を修得させることを目的としています。
- 専門科目は、専門分野の基礎、専門知識の取得を目的とした各領域の特論と修士論文作成に向けた一貫した指導を目的とする所属領域の基礎特論・演習・特別研究で構成しています。

3 成績評価基準
- 授業科目の単位認定は，筆記（口述）試験もしくはレポートにより行います。
- 試験は授業科目担当教員により必要に応じて適宜実施します。
- 各授業科目の成績は、秀・優・良・可・不可の5種とし、秀・優・良・可を合格とします。

秀（100-90点）	修得した高度の専門的学識及び能力を相互に関連付けて応用できる
優（89-80点）	修得した高度の専門的学識及び能力を応用できる
良（79-70点）	高度の専門的学識及び能力を修得している
可（69-60点）	最低限必要な高度の専門的学識及び能力を修得している
不可（59-0点）	最低限必要な高度の専門的学識及び能力を修得していない

4 学位審査

学位論文の評価は、主査1名、副査2名で組織される審査会による論文審査と最終試験によって厳密に行います。

【看護学領域】

1 教育課程の概要

看護学領域は、看護学の教育・倫理・管理学の基本概念となる課題を取り上げるとともに、各ライフステージにおける健康の保持・増進及び在宅療養と看取りを見据えた生活支援のための授業科目を設けています。

看護学の専門知識と倫理性を深め、教育・研究者としての能力開発、臨床・地域保健医療活動の場において指導的役割を担う人材の育成を目指しています。

2 到達目標

①知識・理解

ア. 専門領域をより深く理解できるための高度な専門知識を修得する。

イ. 専門領域と密接に関連する他領域の専門知識を包括的・多角的に理解する。

②当該領域固有の能力

ア. 臨床・地域保健医療活動の場において、根拠をもって看護を実践する。

イ. 臨床・地域保健医療活動の場において、問題の本質を見抜き、倫理的・科学的に分析し解決する。

ウ. 保健・医療・福祉の教育機関において、教育・研究を実践する。

③汎用的能力

ア. 様々な状況において、自己管理、協働、プレゼンテーションができる能力を身につける。

イ. 応用科学である看護学を通して、他領域の専門職者と連携して保健医療の発展に寄与する。

【放射線技術科学領域】

1 教育課程の概要

診断や治療は生体の器官、組織、細胞の各レベルから得られる情報を基にして行われています。本領域では、生体からの情報について、物理学的、化学的及び生物学的手法を駆使して評価解析し、診断や治療への応用発展を目指し、その為に必要な知識と技術の修得と共に、保健医療分野のリーダーの役割を担う人材の育成を目指しています。

2 到達目標

①知識・理解

ア. 放射線技術科学領域における各分野の高度な専門知識を修得する。

イ. 放射線のマクロレベル及びマイクロレベルでの反応性を理解する。

ウ. 保健医療に関わる異分野他領域の多様性を理解する。

②当該分野固有の能力

ア. 専門分野における高度な知識と技術を修得できる。

イ. 専門分野における高度な知識と技術をもとに、放射線科学分野での新たな応用展開をする。

ウ. 医学物理士等のより高度な資格取得を目指す。

③汎用的能力
ア. 論理的な思考力、問題解決能力を身につける。
イ. 英文情報の検索と読解能力を身につける。
ウ. 医療における倫理と責任を併せ持つ保健医療分野のリーダーの素養を涵養する。

【生体検査科学領域】

1 教育課程の概要

生体は細胞を最小基本単位とし、その集団としての組織、器官等により形成されていますが、病態因子・機序の解析は、生体レベルから細胞レベルまで遡行することで可能となり、その成果は診断・治療等への開発に繋がります。本領域では、この二方向性の教育・研究を主軸とし、生体検査科学領域の解析のできる人材の育成を目指しています。

2 到達目標

①知識・理解
ア. 生体検査科学における各分野の高度な専門知識を修得する。
イ. 病態と細胞レベル・分子レベルにおける事象との関連について理解する。
ウ. 異分野の研究領域への関心を持ち理解する。
②当該分野固有の能力
ア. 生体検査科学における高度な知識と技術を修得できる。
イ. 生体検査科学における高度な知識と技術をもとに、生体成分の新たな機能解析や検査技術開発に向けた研究に取り組むことができる。
③汎用的能力
ア. 倫理的な思考力、問題解決能力を身につける。
イ. 国際社会で活躍できるコミュニケーション能力を身につける。
ウ. 医療における倫理と責任を強く自覚した保健医療分野のリーダーとしての能力を身につける。

【総合リハビリテーション科学領域】

1 教育課程の概要

理学療法学及び作業療法学を基盤として、運動・精神障害の回復や生活活動の向上を目的とした評価・治療、生活環境要因が健康や障害に及ぼす影響や住環境整備、などの研究を展開します。加えて、新しい医療技術や医療機器を開発でき、保健医療に貢献できる高度な専門技術を有し、実践の場でリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。

2 到達目標

①知識・理解
ア. リハビリテーション科学領域に関する専門的知識を体系的に理解する。
イ. リハビリテーション科学領域の専門分野をより深く理解するための高度専門知識の修得を目指す。
②当該分野固有の能力
ア. 人間の運動から生活活動、障害予防までの広い範囲で障害を捉える視点を修得する。
イ. リハビリテーション科学領域で扱う評価・治療、障害予防における科学的基盤を確立するための研究に取り組む能力を身につける。
ウ. 健康や障害に及ぼす生活環境要因を具体化し、その因果関係の仕組みを探究して、説明できる能力を養う。
③汎用的能力
ア. 様々な状況において高度なコミュニケーション、プレゼンテーションの出来る能力を修得する。
イ. 保健医療の現状改善を図る実践能力を持ち、地域の保健医療に貢献できる高度専門職としての役割を担う能力を修得する。

保健学研究科保健学専攻博士後期課程 アドミッション・ポリシー

◎保健学専攻

1 概要

(1) 基本理念

保健学は、人間を身体的・精神的・社会的に全人的な存在としてとらえ、人々の健康について探究し、健康と福祉の向上に寄与する学問領域です。弘前大学大学院保健学研究科保健学専攻(博士後期課程)では、この学際的な学問領域を進歩・発展させるとともに、保健学の領域における教育と研究を通して、その成果を社会に還元し、人類の健康と福祉の向上に寄与することを基本理念とします。

(2) 教育目標

①研究者としての能力開発
保健学に係わる学際的研究をエビデンスの探究という視点から専門の枠を超えて実践し、その結果を世界に向けて発信できる人材を育成します。
②教育者の育成
大学及び大学院において教育指導に寄与でき、地域社会において科学的方法論に基づいた健康教育を実践できる人材を育成します。
③高度な専門知識・技術を身につけた指導者の育成
高度な専門知識と技術を身につけ、チームの指導者として課題を選択・研究し、その解明に寄与できる人材を育成します。
④地域保健医療活動推進能力の育成
地域保健活動の場において指導的役割を果たす立場の者を教育・指導・支援できる人材の育成を目指します。

2 求める学生像

・人々の健康を保持増進し、生活の質の向上に向けた独創的・学際的な研究を自立的に進められる学生
・高度な専門性、倫理性を身につけ、自らの専門性を深化・発展させることのできる学生
・科学的根拠に基づいた保健学を実践・発展させる上で不可欠な、"エビデンスの探究・蓄積"ができる学生
・未解明の問題のエビデンスを探究するため、学際的連携や多専門職による職種を越えた協働・研究を展開できる学生

3 入学前に身に付けておいてほしいこと

・高度な専門知識と技術を基盤として理論やエビデンスを追求するための基礎的知識と方法論
・理論やエビデンスに対応した実践の展開や新しい技術を開発するための基礎的知識と方法論
・多専門職の連携によるチーム医療を実践し、新しい視点と戦略をもってリーダーシップを発揮できるための基礎的知識と方法論

4 入学者選抜方針

総合的学力及び研究に対する探求心、意欲等を評価するために、筆記試験(英語)及び口述試験の結果を総合して選抜します。
(提出書類は、口述試験の基礎資料として使用します。)

【看護学領域】

1 概要

看護学の幅広い学識と高度な専門知識と倫理性を深め、教育・研究者として独創的・学際的な研究を自律的に進め、人々の健康を保持増進し、生活の質(QOL)向上に向けて科学的根拠に基づき実践できる人材の育成を目指しています。

2 求める学生像

・看護学領域に関する高度な知識と技術を基に、健康の保持増進と生活の質向上に向けた取り組みを実践できる人
・修得した知識と教育・研究能力を活かして、保健・医療チームの中でリーダーとして活躍できる人
・論理的思考力を基に、学際的な研究に自律的に取り組み、看護学の発展に寄与できる人

【放射線技術科学領域】

1 概要

人間の"生命活動"に係わる生体情報や生体機能について、科学的解析手法を駆使してエビデンスを追究し、サイエンスとしての放射線技術科学の更なる深化を図るとともに、今日的な保健医療の課題に対して、職種の枠を越えて相補的に連携・協働し、特定領域に縛られない新しい発想と創造的思考力を持った人材の育成を目指しています。

2 求める学生像

・放射線技術科学に関わる教育・研究者を目指す人
・高度な専門知識と技能を持った臨床研究者を目指す人
・先端的な放射線技術科学の知識及び技術を学びたい人

【生体検査科学領域】

1 概要

分子、細胞レベルから個体に至る幅広い観点で生命現象を理解し、広範な生命科学領域における多様な問題を解決するための独創性と実行力を兼ね備えた人材を育成することを目的としてい ます。このような人材育成を目的に、生命現象の分子レベルでの理解を基盤として、生体機能及び病因・病態解析に係る教育・研究を行います。

2 求める学生像

・生体検査科学に関連する教育を行う大学あるいは大学院における教育・研究指導に意欲のある人
・保健・医療の現場において、高い倫理観と高度な専門知識を持った実行力のある人
・指導的・専門的立場から課題を見つけ、グローバルな観点から自立的な研究を行うことができる人

【総合リハビリテーション科学領域】

1 概要

理学療法学及び作業療法学を基盤としたリハビリテーション科学領域の幅広い学識と高度な専門知識および倫理性をさらに深め、人々の健康の維持・増進、運動・精神障害の予防と軽減、生活の質(QOL)の向上を目的とした科学的根拠に基づくリハビリテーション(Evidenced Based Rehabilitation)を実践・発展させていく上で不可欠な、"未解明のエビデンスの探究・蓄積"ができる人材の育成を目指しています。

2 求める学生像

・リハビリテーション科学領域に関する高度な知識と技術を基に、健康の維持・増進と生活の質向上に向けた取り組みを実践できる人
・修得した知識と教育・研究能力を活かして、保健・医療チームの中でリーダーとして活躍できる人
・既成概念にとらわれない発想と論理的思考力を基に、学際的な研究に自律的に取り組み、保健学を発展させていける人

保健学研究科保健学専攻博士後期課程 カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー

1 修了時の到達目標

・科学的根拠に基づいた保健学を実践・発展させていく上で不可欠な、未解明の"エビデンス"を探究・蓄積できる。
・"エビデンス"の探究に向けて、学際的連携や多専門職による職種を越えた協働・研究を展開し、自らの専門性を深化・発展させることができる。

2 教育課程編成の方針

・共通科目は、エビデンスの探求と専門の垣根を越えた連携・協働の意義や方法論の修得を目的としています。
・専門科目は、博士論文作成に向けた一貫した指導を目的とする所属領域の特講・特講演習・特別研究で構成しています。

3 成績評価基準

・授業科目の単位認定は、筆記(口述)試験もしくはレポートにより行います。
・試験は授業科目担当教員により必要に応じて適宜実施します。
・各授業科目の成績は、秀・優・良・可・不可の5種とし、秀・優・良・可を合格とします。

秀(100-90点)	修得した高度の専門的学識及び能力を相互に関連付けて応用できる
優(89-80点)	修得した高度の専門的学識及び能力を応用できる
良(79-70点)	高度の専門的学識及び能力を修得している
可(69-60点)	最低限必要な高度の専門的学識及び能力を修得している
不可(59-0点)	最低限必要な高度の専門的学識及び能力を修得していない

4 学位審査

学位論文の評価は、主査1名、副査3名で組織される審査会による論文審査と最終試験によって厳密に行います。

【看護学領域】

1 教育課程の概要

看護学の幅広い学識と高度な専門知識と倫理性を深め、教育・研究者として独創的・学際的な研究を自律的に進め、人々の健康を保持増進し、生活の質(QOL)向上に向けて科学的根拠に基づき実践できる人材の育成を目指しています。

2 到達目標

①知識・理解
ア. 看護学領域に関する高度な知識と技術を修得し体系化する。
イ. 看護学領域における教育方法・研究方法に関する知識と技術を修得する。
ウ. 保健・医療・福祉分野における倫理およびマネジメントに関する知識と技術を修得する。
エ. 関連する他領域との連携に必要な基礎的知識と技術を修得する。
②当該分野固有の能力
ア. 看護学領域における独創的・学際的な研究を自律的に実践し、その成果を社会に還元し国際的に発信する。
イ. 看護学領域における高度専門職業人に対して、教育・研究指導を実践する。
ウ. 看護学・保健学の"エビデンス"に基づいた高度な医療実践を行う。
エ. 解決すべき課題を先見的に見出し、倫理的・科学的に分析し、創造的に解決する。
オ. 保健・医療・福祉の他職種と協働し、医療チームの指導的役割を果たす。
③汎用的能力
ア. 看護学領域の教育・研究者として自律的に活動し、社会的責務を果たす。
イ. 高度専門職業人として必要なコミュニケーションスキルや論理的思考力を持つ。
ウ. 看護学領域における研究成果を通して、看護学・保健学の学問的基盤の確立と発展に寄与する。

【放射線技術科学領域】

1 教育課程の概要

人間の"生命活動"に係わる生体情報や生体機能について、科学的解析手法を駆使してエビデンスを追究し、サイエンスとしての保健学の更なる深化を図るとともに、今日的な保健医療の課題に対して、職種の枠を越えて相補的に連携・協働し、特定領域に縛られない新しい発想と創造的思考力を持った人材の育成を目指しています。

2 到達目標

①知識・理解
ア. エビデンスに立脚したサイエンスとしての教育・研究を行う。
イ. 専門領域における教育・研究者として必要な知識と技術を修得する。
ウ. 専門領域に関する国際的なレベルの知識と技術を修得する。
エ. 学際横断的な連携に必要な知識と技術を修得する。
②当該分野固有の能力
ア. 教育・研究者に必要な批判力、科学的分析力及び表現力を身につける。
イ. 国際的に通用する最先端の学術研究を推進する能力を身につける。
ウ. 高度保健医療専門職者の教育・研究を指導する能力を身につける。
③汎用的能力
ア. 専門領域の教育・研究者として自立し、社会人としての責務を果たす。
イ. 国際的な場でのプレゼンテーションやコミュニケーションに必要な能力を身につける。
ウ. 専門領域における教育・研究活動を通して、保健学の発展に寄与する。

【生体検査科学領域】

1 教育課程の概要

生体分子の機能や病態の解析について独創的で質の高い研究を遂行することに意欲があり、高度な専門性と倫理観を有し、人類の健康と幸福に貢献するために、生体検査科学の領域で国内外で活躍できる教育・研究者の育成を目指しています。

2 到達目標

①知識・理解
ア. 生体検査科学における教育・研究者として必要な高度専門知識を身につける。
イ. 生体検査科学における国際的スタンダードとなっている知識や技術を身につける。
ウ. 学際的な研究に対応できる知識や技術を身につける。
②当該分野固有の能力
ア. 種々の研究成果について客観的かつ批判的に評価できる。
イ. 生体検査科学における教育・研究を指導できる能力を修得できる。
ウ. 先端の学術研究を推進する能力を修得できる。
③汎用的能力
ア. 自立した教育・研究者として社会に貢献できる。
イ. 英語によるコミュニケーション能力を涵養し、国外研究者と討論する能力を身につける。
ウ. 高い倫理観と強い責任感を有する生命科学者として、研究成果を国際的に発信する能力を身につける。

【総合リハビリテーション科学領域】

1 教育課程の概要

理学療法学及び作業療法学を基盤としたリハビリテーション科学領域の幅広い学識と高度な専門知識および倫理性をさらに深め、人々の健康の維持・増進, 運動・精神障害の予防と軽減、生活の質(QOL)の向上を目的とした科学的根拠に基づくリハビリテーション(Evidenced Based Rehabilitation)を実践・発展させていく上で不可欠な、"未解明のエビデンスの探究・蓄積"ができる人材の育成を目指しています。

2 到達目標

①知識・理解
ア. リハビリテーション科学領域に関する高度な知識と技術を修得し体系化する。
イ. リハビリテーション科学領域における教育方法・研究方法に関する知識と技術を修得する。
ウ. 保健・医療・福祉分野における倫理およびマネジメントに関する知識と技術を修得する。
エ. 関連する他領域との連携に必要な基礎的知識を修得する。
②当該分野固有の能力
ア. リハビリテーション科学領域における独創的・学際的な研究を自律的に実践し、その成果を社会に還元し国際的に発信する。
イ. リハビリテーション科学領域における高度専門職業人に対して、教育・研究指導を実践する。
ウ. リハビリテーション科学の"エビデンス"に基づいた高度な医療実践を行う。
エ. 解決すべき課題を先見的に見出し、倫理的・科学的に分析し、創造的に解決する。
オ. 保健・医療・福祉の他職種と協働し、医療チームの指導的役割を果たす。
③汎用的能力
ア. リハビリテーション科学領域の教育・研究者として自律的に活動し、社会的責務を果たす。
イ. 高度専門職業人として必要なコミュニケーションスキルや論理的思考力を持ち、プレゼンテーション能力を身につける。
ウ. リハビリテーション科学領域における研究成果を通して、保健学の学問的基盤の確立と発展に寄与する。

弘前大学
HIROSAKI UNIVERSITY 2020

医学部保健学科
School of Health Sciences

■弘前大学問合せ先一覧

本学部案内の内容について質問等がある場合は、
下記にお問合わせください。

◎授業内容・カリキュラムについて
医学部保健学科学務担当 TEL 0172-39-5911

◎入学試験について
入試課 TEL 0172-39-3122･3123

◎学生寮について
学生課課外教育担当 TEL 0172-39-3107･3115

◎奨学金・授業料等免除について
学生課経済支援担当 TEL 0172-39-3117･3135

●弘前大学ホームページアドレス
http://www.hirosaki-u.ac.jp/

●医学部保健学科ホームページアドレス
http://www.hs.hirosaki-u.ac.jp/